



上 運送車から出た途端に、少年たちは手や足を鎖で繋がれ、連入獄なく抑えられる。90分間にもわたり、いくつもの階段や廊下を通過しなければならない。カリフォルニア、07年2月
下 3人の教官が抑えるなか、固立て伏せをさせられる少年。少しでも命争に寝なければ、罰として固立て伏せをさせられる。テキサス、07年1月



DAYS JAPAN
Special Prize
by Jury
DAYS審査員
特別賞

リジー・サダン
Lizzie SADIN
アメリカの少年刑務所
Mothers behind bars

看守に抑えられるながら、鎖を知られる少年。カリフォルニア、2007年2月。写真はすべてアメリカ

刑務所の中の子どもたち

世界中で100万人以上の子どもたちが、非道な罰を受けながら生活に拘束されている。未成年者のための裁判所や専門の裁判官も存在せず、国際条約にはなはだしく違反している国で拘束されている場合もある。困窮した子どもたちも違法または恣意的な方法で自由を奪われることはないと思われている。条約は、「自由を奪われた子どもは、人道的かつ慈悲をもって、年齢を考慮して扱われなくてはならない」という条約もある。

囚人という扱いかで、その国の民主主義の成否が見えてくる。同様に、子どもをどう扱うかで、その社会を評価することができる。ところが、子どもたちを拘束し恣意的に扱うが行でなく、別室を味わわせ非人道的に処遇する再教育キャンプや閉居所、隔離・保護施設がある国は数多い。

世界的には、未成年が成人と一緒に拘束され、暴力や虐待、性的搾取などに対処しなくてはならないのは普通のことだ。施設では教育は受けられず、家族の面会はまれか、まったくない。定員オーバーで、乱交や栄養不足、不衛生、医療不足は珍しくない。米国の施設は、見た目は非道にすぎないで教育されている。罰則なのは内面

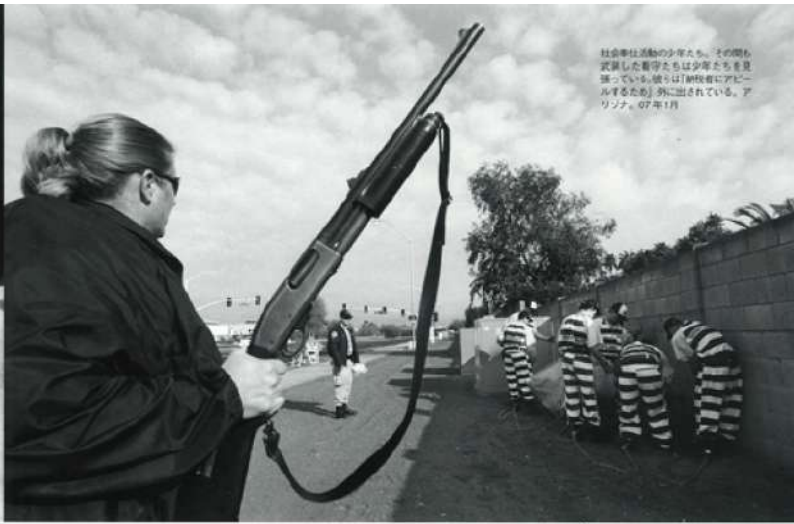
だ。初めて入所する人が体験するブートキャンプでは、不安定なショックを覚えるのは間違いない。写真の黒人少年はついていけず、鼻を噛らしていたので刑務官に目をつけられた。やがていじめの対象となり、誰にも見られない格闘場で叩かれた。その間、別の刑務官が少年の耳に絶え間なく大声を押しつけていた。私は激しい嫌悪感を覚え、あまりのうるさに撮影が難しいと思った。しかし、目の前で起きていることを、彼が耐えていることを証言しなくてはならない。このことを証言しなくてはならない。同じような思いは、行く先々で続いた。厳しい規律は教育の一環だという信念に基づいていながら、軍隊形式のブートキャンプには従順と抑制しかない人間の尊厳に対する意識の欠如は、憎悪と反抗を生む。若者を社会の正義に反することに先敢してあり、再犯へとつながっている。米国の再犯率は80%にも達している。施設の手法は効果的なのか疑わしい。

今回のプロジェクトの8年間で、多大な困難と遭遇した。ロシアの3刑務所を1時間ずつ訪れるための手続きには1年半かかった。米国内では3年必要だった。合衆国で毎日施設に入ることができた。

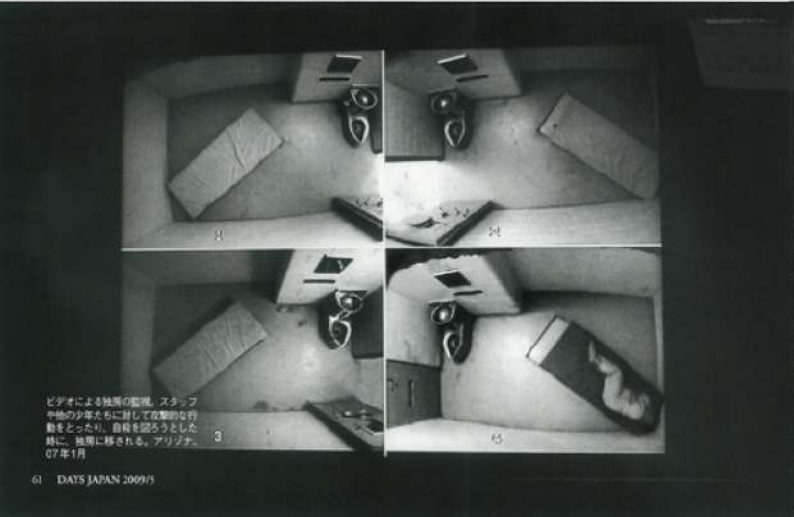
若者たちの尊厳を回復し、彼らを取り巻く状況と環境を打ち破る。そうして、彼らをおから引き出す。それが私のしなかつたことだ。(翻訳: 田村家治)



何回も同じようなことを繰り返す。少年たちは監視カメラで見られている。アリゾナ、07年1月



社会福祉活動の少年たち。その間も武装した看守たちは少年たちを見張っている。彼らは「射殺者にアヒールするたぬ」外に出されている。アリゾナ、07年1月



ビデオによる監視の監視。スタッフや他の少年たちに対して攻撃的な行動をとったり、自殺を図ろうとした時に、強制に移される。アリゾナ、07年1月



壁の上でナイフを何度も振り回す少年。カリフォルニア、07年2月